

## 和歌山県名匠

# はし もと けい いち 橋 本 恵 一

### ■ 経歴及び業績

昭和7年に田辺市で生まれる。京都市の藤岡光影堂で、約8年間表具の技術を習う。その後、郷里田辺に帰り、父橋本豊吉氏の後、京表具「竹泉堂」を継ぎ、今日までの46年余り、技能の研鑽に励み、卓越した技能を身につけ、数々の襖、掛軸、屏風及び古文書などの修復に努めている。

重要な文化財の絵画等の修復は、修理前調査から始まり、数十工程の作業を経て仕上がるもので、根気と熟練が必要であり、あくまでも現状維持を原則としながら、しかも長い年月に耐えるよう修復している。

氏の手で修復され息を吹き返した代表的な文化財には、奈良法華寺蔵「絹本着色阿弥陀三尊及童子像」、京都歎喜光寺蔵「絹本着色一遍上人絵伝」、京都神護寺蔵「紺紙金字一切経」をはじめとし、現在、県立博物館に所蔵されている「熊野権現縁起絵巻(江戸時代)」、「道成寺縁起(江戸時代)」、「役行者像(室町時代)」などがある。

特に国宝や重要文化財の修復については、県における第一人者といわれている。

昭和58年から平成元年まで県表具組合副理事長、同紀南支部長として、業界の発展と後進の指導に寄与し、多大な功績を残しており、平成元年度には、和歌山県技能賞を受賞している。



職 種 表具